

評価基準
4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知した。 ・本校HPにて公表。入学者には入学時オリエンテーションで、保護者には学生を通して周知した。 ・在校生・教職員には学生生活の手引きを配布した。	・学生生活の手引きは今年度よりポータル(岩崎学園7校によるポータルサイト)からのPDFによる配信となっている。旧指定規則と新指定規則の学年が混在しており、周知の際注意する。
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・2020年度の新生より、新指定規則である。 ・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示した。 ・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布した。 ・シラバスは岩崎学園全体で共通のLMS(Learning Management System:学習管理システム;以下、スタログ(LMS))で時間割と共に配信し、閲覧が可能である。 ・教育目的・目標ならびにアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、HP上で公開している。	・新指定規則該当学年は1、2、3年生である。 ・COVID-19対応のため、一部オンライン授業(座学系)を実施している。今後もCOVID-19の状況を見極めながら、オンライン授業の実施について模索していく。 ・アセスメント・ポリシー(学習成果の評価方針)は策定途中であるが、運用できるものから実施し、修正を行っていく。

2. 学校運営

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
瀬古	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4	・理事会、本校教務部会議・教務部運営会議・各学科会議・グループリーダー会議・各業務会議・広報学生課会議、朝礼を開催。	・COVID-19の影響により在宅勤務者がいること、オンライン会議が併用されることなどから、教職員間のコミュニケーション不足によるトラブルがないよう努めたい。Googleチャットによる掲示板等を併用し、教職員に対し会議内容等の周知を徹底する。 ・グループリーダー会議についてはどのような形で実施していくか検討し、より有意義なものとする。
	・事業計画が定められているか。	4	・業務毎に1年間の業務計画を定め、実行した。 ・各学年、各学科のリーダーにて、欠席率や退学率など数値目標を定め、目標達成に向け実行した。	・COVID-19による影響を鑑みながら、計画や目標に沿い、学校運営を行う。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・予算の範囲内で運営できた。	・経年劣化に伴う機器の更新が多くなっている。引き続き、予算の範囲内で更新をかけていく。
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・COVID-19の感染状況により、柔軟に対応していきたい。
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	4	・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行した。 ・非常勤講師のオンライン授業におけるサポート業務が加わり負担が増えた教員もいたが、スタログ(LMS)の利用により、一部解消された。 ・感染症対応に伴い学生対応業務が増えた。 ・臨床実習について実習施設の確保や変更が相次ぎ、業務負担が増えた。 ・岩崎学園横断プロジェクトがあり、一部教員の業務量が増えている。	・業務の簡略化ができる部分を探索し、業務負担を軽減していく。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・夏冬賞与時、年度末実施した。	・2023年度より岩崎学園の新たな人事制度が展開されることになり、職位については今年度より適応されている。
	・出勤が適切に管理されているか。	4	・タイムカードまたは出勤簿、勤怠届を月次管理した。	・継続
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理した。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・健康診断は2021年4月1日に実施した。 ・ストレステストは2021年12月に実施した。	・健康診断は2022年3月31日に実施済。 ・ストレステストの実施については総務より案内待ち。
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・オンライン授業の有無にかかわらず、資料の配信・ミニテストなどをスタログ(LMS)で学生に展開している。 ・GoogleworkSpaceや岩崎学園独自のポータルを利用し、学校からのお知らせを配信している。 ・スタログ(LMS)を利用し、教員・学生共に欠席管理を行っている。 ・学生が学校のGmailアカウントを持っているため、教職員・学生間での連絡が容易である。 ・岩崎学園でGaroonを利用し、全教職員のスケジュールを把握している。 ・岩崎学園内の情報システム担当者が2回/月来校し、教職員のサポートをしている。	・スタログ(LMS)の課題整理と利便性の向上を図る。 ・デジタル化のメリット・デメリットを見極めながら、紙面による書類等の扱いや情報収集などについて検討する。 ・種々オンライン化に伴い、ネットワークの保守が重要であり、岩崎学園の情報システム担当者等と連携を図っていく。	

3. 教育活動

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
水島	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・スタログ(LMS)にて、シラバスを配信している。また、GoogleworkSpaceを活用し、ホームルーム情報や総合演習のフィードバック、学内実習などを行っている。オンライン・対面授業・実技とハイブリットな方法で実施している。 ・配信時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。 ・シラバスは奨学金新制度に適應するよう変更し、またスタログ(LMS)での配信に合わせ、一部改良したものを導入した。	・スタログ(LMS)として、スタログ上でのシラバス公開を継続する。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT134・OT131単位(指定規則101単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年度新生から、新指定規則に適應するカリキュラムを実施している。	・新カリキュラム3年目として、実施状況を確認する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、感染対策を実施しながら対面で説明を行った。 ・在校生にはスタログ(LMS)で周知した。	・特になし
	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校3校(横浜南陵・瀬谷・金沢総合高等学校)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・令和4年度入学予定者に入学前教育プログラムを実施し、受講状況と課題提出状況を把握した。	・後期も同様に実施する。 ・COVID-19対応のためオンラインの導入など柔軟に検討し、これまでと同様に高校生の現状を把握する。

		・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習施設と連絡を取る際に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・後期も同様に連携していく。 ・今後Webアンケートなどを行い、結果について分析する。
		・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しが行えたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせた新しいカリキュラムの内容について検討する。
		・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載し、学生へ周知している。	・特になし
田中	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続き同様の方針で実施する。
		・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 ・教員の外部講習会への参加がみられたか。	4	・後期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を2021.11/22～12/3、終了後2022.2/14～2/24に実施した。2021年度途中からスタログ(LMS)での実施となり、担当教員は自身の担当教科のみ結果を確認できるシステムとなっている。回収率は概ね90%と良好である。集計結果は、非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。 ・外部講習会はCOVID-19の影響を受け、Web開催のものが多く、Web開催については、参加を促した。	・授業アンケートは、2022年度も引き続き、前期2回・後期2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。 ・外部講習会は、Web開催を含め可能な限り、参加を勧める。 ・進研アカから講師を招き、基礎カリサチ(1回目)の結果報告会を9月に実施予定(日程調整中)。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・COVID-19の影響にて、学会・研修会等は、主にWeb開催で実施されている。Web開催の学会参加を促した。	・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。 ・内部研修会として、学生のメンタルコントロール(特に国家試験などのストレスフルな状況でのメンタルコントロール)について、臨床心理士の講演を9月に企画予定。 ・基礎カリサチ1回目の結果について、報告会を実施し、学生指導に生かす。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・クラス担任は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。 ・一部非常勤講師のオンライン授業について、教職員がサポートし、情報共有を行った。 ・COVID-19に対する学校対応に変更があった場合、文書にて周知した。 ・次年度の「教務のしおり」を年度替わりに郵送し、確認をお願いした。	・クラス担任(特に1年生)は、非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。 ・一部非常勤講師のオンライン授業について、教職員がサポートする。 ・感染状況により変化するCOVID-19学校対応については、継続し周知していく。
		・担任業務サポート業務のマニュアル化において、作成したマニュアルの検証を行ったか。 ・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。	4	・概ね実施された。	・教職員の退職・新入職員の奉職や、新カリキュラムへの変更にもともなう、担任サポート業務の内容見直しを含め、適宜マニュアルの見直しや作成を行い、より良い活動に促す。
瀬戸山	臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・COVID-19の影響により、実習施設変更を余儀なくされたが、PT学科が1～3年と4年2期分、OT学科は3年と4年のそれぞれ1期分について、外部臨床実習施設において実習を行うことができた。 ・実習施設の申請書、契約書の管理等、現時点では滞りなく終了した。	・2022年度実習施設不足分については、随時施設へ依頼し、確保する。 ・2023年度の実習地確保状況や厚労省への施設登録申請については、タイムスケジュールを確認し、業務にもれがないように留意する。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	2022年度新規施設として、理学療法学科17件、作業療法学科3件の計20件について、厚労省へ新規実習施設申請が終了した。	・継続していく。 ・両学科とも3年次の評価実習(新カリに該当)より臨床実習指導者講習会受講済みの指導者要件が必須となるため、合わせて確認していく。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	3	・2021年度3年次臨床実習指導者会議は、2021年6月26日(土)Zoomにて滞りなく実施できた。参加率は理学療法学科94.3%(53施設中50施設出席)、作業療法学科85.2%(27施設中23施設出席)であり、例年に比べて出席率が高かった。 ・2022年度4年次臨床実習指導者会議は、2022年3月11日(金)Zoomにて滞りなく実施できた。参加率は、理学療法学科81.5%(119施設中97施設出席)、作業療法学科81.8%(55施設中45施設出席)であり、昨年に比べて、参加率が低い傾向であった。一つの要因として、参加しにくい日時であったと考えられる。	・2022年度3年次臨床実習指導者会議は、2022年6月25日(土)に実施予定である。今後、会議形態の検討を含め、会議に向け準備を進める。
水島	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4	・受験希望者、保護者には、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、公開に至っていない。スタログ(LMS)を使用した岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、結果を公開している。	・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、結果を公開している。今後、外部への公開の是非も含めて検討する。 ・対面による授業、オンライン授業のいずれもスタログ(LMS)を使用し、シラバス公開及び出席管理を行う。さらに、岩崎学園本部と連携することで、より便宜性の良いものにしていく。

4. 教育成果

担当	評価項目	令和3年後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
田中	資格 ・学生全員に障がい者スポーツ指導員が認定されたか。	4	・新4年生を対象として障がい者スポーツ指導員初級認定の手続きを実施した。 ・3月末に2022年度の障がい者スポーツ指導員(PT学科:中級、OT学科:初級)認定校の申請を行った。	・指導員中級の資格取得(PT学科)に向け、地域高齢者対象の体力測定会を計画(5/14、5/21、6/18)している。 ・2022年度は障がい者スポーツ大会が開催される予定のため、新3年生が全員参加予定。
	卒業研究 ・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・PT学科では、COVID-19の影響で、実験実施時期を見極め、期間を延長し対応した結果、期日までに全員の提出が確認できた。 ・OT学科についても、文献的研究、一部調査研究とし取り組みを進めたが、期日までに提出ができていない学生が1名おり、再試験同様の手続きで期間を延長し指導している。	・2022年度の卒業研究発表会は、11/11に予定している。
国家	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	4	・国家試験対策教材の業者を変更し、利便性を高めた。 ・専門基礎問題を中心に過去3年分の国家試験出題分野に照らし合わせ出題頻度を調査し、卒業試験の作成に役立てた。 ・資料、説明動画、問題をワンセットとした横リハ独自の国家試験対策教材を作成し、スタログ(LMS)とGoogleClassroomにて配信し、国家試験対策の一助となった。 【理学療法学科】 ・各実習期の残り組の学生は、対面やオンラインにて国家試験対策担当教員による個別指導を行った。 【作業療法学科】 ・学内実習および臨床実習が終了した11月に成績下位層に国家試験対策講義(共通)を実施した。 ・学科共有の国家試験面談シートにてオンライン上でも各学生の進捗を共有できるようにした。	・国家試験の傾向、学生の状況(実力テストの結果)など、情報を整理して、オンラインまたは対面にて個別の学生指導を継続していく。 ・成績低迷者に対しての特別授業の開始時期を検討する。 ・低学年から国家試験に向けての学習方法を検討する。 ・COVID-19の状況を勘案しつつ、学校における学習環境の拡大を検討する。

中留	試験・卒業試験	<ul style="list-style-type: none"> 卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験出題分野に照らし合わせ、専門ならびに専門基礎問題の過去3年分の出題頻度を調査し、その資料をもとに出題内容および難易度別に出題数を検討したうえで、卒業試験を作成した。 卒業判定については、例年の基準で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度の卒業試験問題と第57回国家試験問題を分析し、2022年度の卒業試験の作成方法を検討する。 卒業試験問題の作成には、複数の教員が関わり、問題の精査を行い、卒業試験後は学生から問題に対する意見を収集し、問題が適切かどうかを検討する。 卒業判定は例年と同様の基準にて実施し、適正かつ公正に実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度もCOVID-19の影響がある中、業者模試や当校のオリジナルの実力試験、卒業試験を含め年間13回の試験を予定通り実施することができた。しかし、臨床実習の時期を例年よりも後倒しにしたため、業者模試を全員一斉に受験することができなかった。 オリジナルの実力試験結果は、分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野に対する指導ツールとして利用した。 3回の卒業試験および実力試験(2020年度の卒業試験)については、試験後に学生へ解答・解説を配布し、復習の機会を与えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実力テスト、卒業試験について、実施方法について検討をしていく。
中村・水島	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> 「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。 	3	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次臨床実習(新カリ1週間):89名中、実習開始前COVID-19濃厚接触者に該当し未実施だった1名は年度末の追加実習を終了。89名中88名ルーブリック0項目なしで単位習得(実習開始前交通外傷により実施困難であった1名は進路変更にて実習未実施)。 2年次臨床実習(新カリ地域福祉分野2週間):COVID-19の影響により夏期に1週間実習し、年度末に残りの1週間を実施予定であったが、COVID-19感染再拡大のため学校判断で学内実習へ移行した。79名ルーブリック0項目なく単位習得。 3年次臨床実習(旧カリ3週間1施設):78名中、COVID-19の影響(施設サイド)により1週間で中断していた3名が2週間の継続実習、実習中に発熱(PCR検査陰性)したまま施設に行き1週間で中止となった1名は、年度末に2週間の追加実習を実施した。4名に0項目はなく終了し、78名単位習得。 4年次臨床実習(旧カリ8週間2施設):1施設でルーブリック0項目があった1名、2施設目実習中体調不良により6週間で終了した2名がそれぞれ追加、継続実習を行い0項目なく、70名単位習得。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次見学実習(新カリ1日6施設):夏期の保育園・幼稚園実習は特別講義で振り替えた。年度末に2か所のみ見学実習を実施し、他はオンラインでの特別講義で振り替えた。 2年次基礎実習(新カリ1週間):年度末に介護老人保健施設で1週間実施。 3年次臨床実習(旧カリ2週間2施設):臨床実習I(2週間)は夏期に実施済。臨床実習IIは年度末に学内実習(作業療法の治療実施OSCE含む)で実施。 4年次臨床実習(旧カリ8週間2施設):1期(4月~5月)を学内実習で振替済。4/24(土)30施設中22名オンラインSVM参加。議事録限定動画(YouTube)で配信。対象学生31名8週間で6/7~(2名施設都合で開始6/21~、7/27~実施。2名コロナ関連で~7/10、~7/24で終了、学内実習で振替):2名追加実習、1名学内実習で終了。 生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として申請した。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協会が作成した「臨床実習の手引 第6版」に準じて作成した本校の実習の手引きについて、今年度の振り返りを基に一部修正を加える。 実習前後のOSCEの準備として、3年次総合演習、セミナーの授業の体系化を進める。 令和3年度、1、2年次のSVMは未実施だったため、今年度はオンデマンドでの実施を予定し、準備を進める。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度はCOVID-19に対する感染対策を行いながら、可能な限り外部での臨床実習実施の方針である。生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として、オンラインなどを活用して、全学生や全臨床実習施設においてMTDLPを活用できるように臨床実習を組み立てる。 臨床実習におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化も継続して進める。
		<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> OT学科ではオンラインでのMTDLPレジュメによる症例報告会を実施し、臨床実習指導者の参加協力を得て、助言をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックシートやルーブリックの使用状況、結果からその妥当性について今後分析する。 次年度の臨床実習形態に即して対応する。
	留年・退学者防止	<ul style="list-style-type: none"> 退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 退学率の低減策が教職員に共有されているか。 留年・退学結果について検証・報告を行ったか。 	3	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生(24期生)の後期再試の平均数は0.48(前期0.81)と昨年度(23期生)1.44よりも減少できた。 2年生(23期生)の後期再試の平均数は1.58(前期0.83)と昨年度(22期生)1.11に比べ僅かに増加。 3年生(22期生)は後期再試の平均数は0.14(前期0.44)と昨年度(21期生)0.51よりも減少できた。 令和3年度は単位未修得による留年者数は例年になく少なく、今年度注視しながら継続フォローが重要である。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期強化組は1年5名、2年6名、3年5名を対象にサポートを行った。 強化組対象者の前年度からの総合点による偏差値比較では、1年38.9(昨年度生49.65)、2年38.2(前年度生平均33.7)で+4.5、3年34.7(前年度生平均35.1)で-0.4となり、2年時にプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年2名、2年2名、3年2名であった。 後期強化組は1年9名、2年5名を対象にサポートを行った。 後期での総合点による偏差値比較では、1年9名平均40.6(前期平均39.1)で+1.5、2年4名平均37.6(前期平均33.4)で+4.2となり、1・2年次でプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年2名、2年2名であった。個別には、強化組対象で1年2名退学・留年、2年では留年退学はなかったが、後期強化組を外れた1名が急降下しており要注意である。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力低下者に対する強化組対策を継続する。 解剖・生理学について、上位学年(3年生)から下位学年(2年生)に向けて指導する学習会の精度を向上させる。 昨年度途中から23期生で開始したクラス内でのグループによる学習会については、1~3年のすべての学年で実施し、より内容を充実させる。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 強化組対策を後期も継続する。COVID-19対策で対面型の実施には制限があるため、オンラインでの対応も踏まえ、又内部特待生と連携しながらハイブリッドな対応も継続して実施していく。
			4	<ul style="list-style-type: none"> 留年率(2021年度留年者の占める割合)PT1/317 0.3%(2020年度2.2%)、OT3/150 2%(2020年度3.8%)、退学率はPT4/317 1.3%(3.5%)、OT6/150 4%(4.5%)と目標とした4%以内であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 退学率、留年率の数値目標4%以内を継続する。
卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HP/パンフやツイッター、学校説明会等広報において紹介した。 概論の授業では、障がい者スポーツに関して実技も交え講演を依頼している。 卒業生参加の授業に関して、今年度は感染対策を徹底しながら行っている。 オンラインのメリットを生かし、卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習での模擬患者役を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続 	

5. 学生支援

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
田中	社会性 ・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 ・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 ・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 ・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。	4	・対面での担任面談や対面授業等で教科担当からの指導を行った。 ・両学科とも年度内に病院や地域での実習を行った。実習にて、自己の社会性における自己課題に気づき、次年度に向けた課題とした。 ・実習で指摘された情意面については、担任との面談で分析・対策を検討し、必要な場合は年度末に追加実習を実施した。	・前期・後期に予定している基礎力リサーチの報告会にて学習状況実態調査(前期分)の結果を確認し、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション等について理解を深める。 ・各学科にて実習での社会性に関する指摘をとりまとめ、その結果を支援に活かす
机	行事 ・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 ・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。	4	・岩崎学園全体で合同卒業式が開催された。また本校の証書授与式と謝恩会は、ロイヤルパークホテル内会場において、学年全体で開催した。感染対策についても学生の対応が適切に行われ、感染者を出すことなく、医療従事者としての高い意識を持ち卒業できたのではないかと考える。 ・謝恩会も卒業生の気持ちのこもった横りらしい会となった。	・4月6日(水)合同入学式が開催された。教職員担当者を中心に、在校生代表の協力も得て、準備を進めた。 ・昨年度に引き続き一部の行事はオンラインまたはハイブリットで行われる可能性があるため、オンラインの中でも学生が主体的に取り組み、参加者の満足度が得られるような内容・方法を検討していきたい。
	・効率よく行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。	4	・2021年度は岩崎学園7校による合同卒業式を開催し、2022年度の入学式も4月6日にパシフィコ横浜にて合同入学式を執り行った。 ・行事担当のスタッフがどの行事にあたっても対応できるよう、業務役割を少しずつ移行した。 ・クラブサークルの通帳管理を学校にて一括管理とした。2021年度は活動がほとんど実施できなかったため、次年度、運用について再度確認していく。	・各行事での新企画など、情報を収集し、効率よく準備する。 ・岩崎学園全体でのイベントについて学内担当者が本部の流れや意向を把握し、新しいスタイルでの運営をスムーズに進められるようにしていく。 ・業務分担についても業務役割をスムーズにスタッフ間で移行できるよう随時進めていく。
水島	個別指導 ・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。	4	・定期的な面談をオンラインも併用しながら実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてはスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回学科会議および問題発生時適宜学生に関する情報交換を行っている。	・継続
	・学生の面接・面談の記録があるか。	4	・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。オンラインでも対応可能なように、セキュリティー対策をして教員間での情報を共有している。	・継続
	・就職・進路について相談できる担当者がいるか。	4	・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。	・継続
宮野	健康管理・防犯 ・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(2021年度は4/1に実施)	・特になし
	・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・4/1新入生オリエンテーション時に資料配布。詐欺・犯罪への注意喚起を実施した。 ・4/21新入生対象に薬物乱用防止の講演会を行う。	・特になし
	就職支援 ・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化	4	・年内内定率:12月17日付 ():2020年度内定率 PT:61.4% OT:59.4% 全体:60.8% (PT:88.3% OT:76.7% 全体:84.2%) ・年度内内定率 ():2020年度内定率 PT:100% OT:100% 全体:100%(PT:90.7% OT:87.2% 全体:89.5%) ・前年度はCOVID-19感染症拡大の影響で実習が中止となり、就職活動は例年より早い動きとなった。今年度は臨床実習の開始が遅れたことが影響し年内内定率は昨年比で減少したものの、目標は達成した。 ・年度内内定率については昨年度比較で上昇。国家試験模試や卒業試験の結果、学習状況が順調な学生に対するフォローを徹底し、年明けから積極的な活動を後押ししてきたことが要因。国家試験終了後も同様にサポートした結果、年度内100%を達成できた。	・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内60%、年度内100%を目指す。
	災害対策 ・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・万が一に備え、保険加入しているか。	4	・戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。 ・災害時用食料、防寒具を備蓄・更新。 ・「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。 ・学生、教職員とも災害時の連絡手段、安否確認フォームを整備し、学生生活の手引きに掲載。 ・通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。また、今年度よりCOVID-19に対応した学生保険を選定している。	・引き続き神奈川県内の学校防災活動マニュアルの作成指針をもとに本校の状況に合わせた災害時マニュアルを整備中である。
経済援助・活動援助	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・岩崎ともみ奨学金財団指定校(給付型奨学金) ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。 ・高等教育修学支援新制度(2020年～)対象機関として認定 ・COVID-19の影響による経済的支援情報を随時提供。	・今年度も給付奨学金の対象者の申告漏れがあった。 今後も継続して対象基準の周知を行っていく。
	・保護者への情報提供は行われているか。	4	・保護者への便り(成績、出欠状況等)を前期・後期期末時に送付。 ・保護者向け情報公開ページをHP内に設置。 ・COVID-19の状況に応じた保護者への案内を1ヶ月ごとに配信した。	・特になし
	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・2021年度は同窓会主催の勉強会を開催。卒業生を講師に招き、腰痛の治療について講演を依頼。3月27日にオンラインで実施し、若手を中心に35名が参加。	・特になし
・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・パドミントン・テニス・チャリーディング等の活動を顧問、補助金で支援している。 ・サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。 ・2021年度はCOVID-19感染拡大防止のため、体育大会は中止。 ・ボランティアサークル等一部の文科系サークルは感染対策徹底のもと活動した。スポーツ系サークルは感染状況が落ち着いた時に体育館の使用を認めたものの、オミクロン株の影響により、再度活動を制限した。	・特になし	

6. 教育環境

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
宮野	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・特になし
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・特になし
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。 ・本年度は雨漏りや外壁の劣化に対応。2021年度は室外機周辺の防水工事、内壁塗装を完了。	・特になし
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材スマコク(国家試験対策eラーニング)を使用 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を導入 ・スタログ(学習支援システム)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・特になし
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。 ・蔵書の登録を再編成し分野に分けナンバリングを実施。Webサイトから学生が閲覧可能な状態とした。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行う。 ・引き続き図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施する。 ・年度末には新規蔵書について教員・学生から希望をとる。
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのPWは半期ごとに更新し、学生に周知した。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討を継続する。
	・指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	3	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。 ・経年劣化したエルゴメーター3台を破棄し新たなものを新規購入した。 ・レクリエーション・リハビリ映像機器 オミ・ビスタを新規購入した。	・学生教育に必要な教材を継続して購入していく。 ・経年劣化した機材を更新していく。 ・3次元動作解析装置の新規購入を検討する。
	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	3	・教務室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。 ・感染予防対策として足踏み式アルコールスタンドを教室、実習室入口に設置した。 ・感染予防対策として、玄関入り口に自動体温測定器を卒業記念品として設置した。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。

7. 学生募集

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
宮野	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・2022年度生はすべての入試を終え、定員の充足を達成した。	・特になし
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・特になし
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができていますか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoycr@iwasaki.ac.jp ・希望に応じて個別相談実施。 ・今年度はオンラインによる個別相談を充実させた。	・特になし
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・「学校説明会」年間6回開催。 学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・「進学説明会」年間1回開催。 ・保護者向け、高校既卒者向け等、状況に合わせた説明会を実施した。 入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。 ・今年度はCOVID-19のため、オンライン開催、及び感染対策を徹底し、人数を制限した来校型説明会を同時に開催した。	・引き続き感染対策を徹底した説明会を実施する。
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・「体験授業」を定期的に開催。 ・リハビリ室見学会実施(牧野リハビリテーション病院で毎週土曜受入) ・短時間で校舎見学と体験が可能なオープンキャンパスを実施 ・感染対策を徹底し、少人数での開催を実施する。	・引き続き感染対策を徹底した説明会を実施する。
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。 ・2022年度生の入金後辞退者は2名であった。	・特になし
	・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・今年度は来校型とオンラインの両方を開催。 ・新生にとっては初めて学習することになる運動学に触れ、内容の難しさ、学習習慣の重要性を実感してもらう機会となった。 また、オンラインで在校生にグループワークに参加してもらい、交流の中で入学後の学生生活をイメージする機会となった。 ・入学ガイダンス、オリエンテーションを実施(3/31)し、学生生活、授業内容、学習方法などを指導した。	・特になし

8. 社会貢献

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
宮野 地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等開催のため、感染対策を徹底して開催。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・特になし
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出し予定であったが、COVID-19により未活用。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。(今年度は中止) ・後述の「つなぐカフェ」にて玄関ロビーを開放している。(今年度は中止)	・学校施設の利用については、COVID-19の状況に応じて、地域の社会資源として活用を検討する。
	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	・「介護デジタルハッカソンin横浜2020」オンライン審査結果発表会;9/26(日)。作業療法学科4年7名参加;1位防災案内アプリ、2位私の健康カルテ(アレルギー提示アプリ)3位スマホ体操の考案。 ・30T5名が岩崎学園主催のICON(3/4)に参加、セミグランプリを受賞した。	・本年度はCOVID-19対策のため、各種イベントが縮小・中止となる予測であるが、学生の安全・安心を担保し、可能な限り参加する。
	・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・地域住民対象の認知症予防を目的とした「つなぐカフェ」はCOVID-19対策のため、対面での実施は中止となっている。タブレット端末などを利用しての学生主催の健康体操をオンライン実施した。 ・地域在住高齢者を対象とした「体力測定会」を、10/2.10/9.11/1.11/6.12/25(計5回)に実施し、のべ85名の参加があった。	・神奈川県高齢福祉課などと連携し、タブレット端末などを利用してのオンライン実施開催に向けて継続して実施していく。 ・体力測定会を5/14.5/21.6/18に開催予定。

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	令和3年 後期評価	2021(令和3年)年度後期達成状況	2022(令和4年)年度に取り組むべき課題等
瀬古 法令遵守	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・所管の神奈川県へ新任教員の届けを提出しており、受理されている。	・新任教員2名、新任非常勤講師2名の届け一式を神奈川県へ提出する。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。 ・在宅勤務に伴う情報管理を徹底した。	・継続
	・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、卒業生アンケート、教職員の自己評価等)となっている。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。 ・授業アンケートをスタログ(LMS)上で実施、各授業の見直しを行っている。	・PDCAサイクルの徹底に努める。
	・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・2021年度にリハビリテーション教育評価機構による評価を受審した。OTIはWFOTの評価を含んでおり、2022年3月25日付で認定証が交付された。 ・リハビリテーション教育評価機構の認定については、結果待ちとなっている。	・WFOTは2022年4月1日～2028年3月31日まで認定が有効となっている。 ・リハビリテーション教育評価機構は結果待ち。
	・自己評価結果を公開しているか。	4	・公開中	・継続